
新地域支援事業を弾みに、老人クラブの活性化を

～市町村老人クラブ連合会会長・事務担当者会議を開催しました～

4月28日（火）徳島市の文化の森総合公園内にある県立21世紀館において、市町村老人クラブ連合会会長・事務担当者会議を開催しました。本年度は介護保険制度の改正に伴い、市町村が取り組むこととなる、新たな支え合いの仕組みづくり「新地域支援事業」への積極的な参画を呼びかけるため、担当者とあわせて、各市町村老連の会長にも出席をお願いしました（24市町村47名出席）。



会議は初めに、県長寿いきがい課から県内の高齢化の状況とあわせて、平成27年3月に作成された「新とくしま高齢者いきいきプラン」における、生涯現役や支え合う地域づくり、介護サービスの充実などの重点的な取り組みの概要について説明がありました。その後、県老連からは平成26年度から取り組むこととなった「老人クラブ会員増強運動」の目標達成に向けた協力を要請するとともに、「新地域支援事業」に積極的に関わっていくことは、各地域における今後の老人クラブの存在感にも影響すると考えられ、老人クラブとしてできること、役割等を行政等に対して働きかけを行うことが重要であると説明しました。

続いて、本年度の事業計画や予算についての説明に移り、各種事業が効果的に実施できるよう協力を要請しました。また、会員増強や「新地域支援事業」への参画に取り組むにあたって、単位クラブの機能やあり方をもう一度見つめ直して、老人クラブの必要性、有意義性を役員をはじめ会員自身が確認してほしいとしました。

※別紙参照「単位クラブの姿」